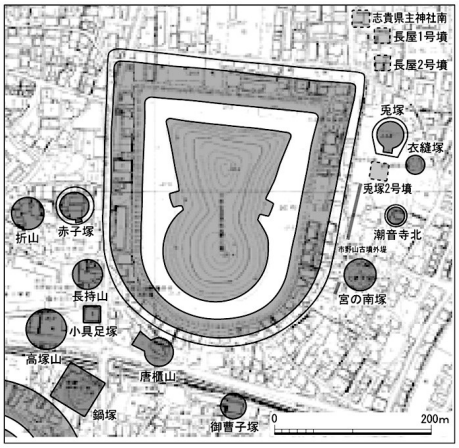
14.河内名所図会を訪ねて　その八　允恭天皇陵

允恭天皇陵は土師ノ里駅の北側にあり、墳丘長 230mの大きな前方後円墳です。しかし、河内名所図会には挿絵はなく、『沢田村にあり。恵我長野北陵と号す』とだけあり、また周辺には小塚が 13 あったということが書かれています。



・盟神探湯（くがたち）

允恭天皇は、父君の仁徳天皇や、子の雄略天皇に比べてあまり有名ではありません。「古事記」によると、允恭天皇は病を長く患っており、初め皇位の継承を辞退しましたが、周りの説得により天皇となります。即位の折に訪れた新羅の大使の医薬により、やがて病は治癒しました。

元気になった天皇は、かねてより考えていた氏姓の乱れ（家柄・身分の詐称）を正そうとします。そこで、甘樫丘に熱湯を沸かす釜を据えて盟神探湯の儀式を行います。これは神に誓約をしてから熱湯の中に手を入れて神意を問うものです。氏姓が正しければ火傷はせず、偽っていれば大火傷をするとされていました。今から考えると恐ろしい儀式ですが、このように神の声を聴くことで諸問題を解決したのでしょう。

古事記を編纂した太安万侶はその序文で氏姓を正した業績をたたえています。

・綿づくり

古墳は貴人の墓として造られたものですが、時代を経るとともに周りに住む人たちとの生活と密接につながっていきました。江戸時代末期の文久年間に御陵の改修にあたり描かれた荒蕪図（改修前の図）を見ると、古墳の中で綿や果実を栽培しているのがわかります。この古墳は別名「綿山」とも呼ばれており、この画中に黄色く描かれているのは綿の花と思われます。この古墳も河内木綿の歴史に一役かっていたのでしょう。

そういえば私が子どものころ、市役所の南側に木綿を扱った工場がありました。また、その近くに綿に関する石碑が立っていたのを覚えています。
（2020 年 11 月　松村）

（参考）秋山離島編、丹羽桃渓画、堀口康生校訂
『河内名所圖會』
『広報ふじいでら』ふじいでら歴史探訪 38
2010 年 3 月号
外池昇編『文久山稜図』2005 年